

第25回

三重県文化賞受賞者名簿

三 重 県

第 25 回三重県文化賞 総評

三重県文化賞は、三重県の文化振興に貢献し、その活動や功績が優れた個人・団体（以下「個人等」という。）を讃えることにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標になるようにという趣旨で設けられた顕彰制度である。

表彰の体系は、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動と功績が優れ、本県の文化向上に貢献した個人等を対象にしている文化大賞、文化功労賞及び文化奨励賞と、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動で将来一層の向上が期待される個人等（県内在住又は三重県出身者に限る。）を対象にしている文化新人賞からなる。

平成 13 年度の第 1 回表彰から令和 6 年度の第 24 回表彰までの受賞者数は 333 名・団体（以下「名」という。）である。

受賞候補者の推薦は、公募により、自薦、他薦を問わない。

第 25 回目になる今回は、令和 7 年 8 月 12 日から 10 月 31 日まで募集を行ったところ、40 名の方からの推薦があり、受賞候補者は 40 名となった。

【募集結果】

受賞区分	推 薦 数	受賞候補者数
文化大賞	6	6
文化功労賞	12	12
文化奨励賞	14	14
文化新人賞	8	8
計	40	40

各賞の受賞者については、三重県文化賞表彰要綱及び三重県文化賞実施要領の規定に基づき、学識経験者、芸術文化関係者等 10 名で構成する第 25 回三重県文化賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）の選考を経て、知事が決定する。

選考委員会では、推薦書、履歴・業績調書、履歴・業績を示す資料を基に、必要に応じて内容の確認や追加資料の提出を求め、厳正かつ公正に行った。

選考委員会における各賞の選考過程は次のとおりである。

文化大賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が極めて優れ、三重県の文化の向上に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って 2 名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った 2 名は、いずれの活動、功績とも素晴らしく優劣をつけがたいものであったが、美術分野（組紐）の松山好成さんを選出した。

文化功労賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が優れ、三重県の文化の活性化に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って6名に絞り込み、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、写真分野（写真美術の振興と普及）の田邊三郎さん、生活文化分野（書道）の平野久信（雅号：平野公慎）さん、学術分野（地域文化財の調査研究（フィールドワーク）、地域の古文書解読分析）の向井弘晏さんの3名の選出となった。

文化奨励賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動により功績を収め、三重県の文化興しに貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行った結果、12名が選出され、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、文化教育分野（子ども文化・芸術体験事業の展開、リトルファーマーズ農業体験事業）の黒瀧一輝さん、音楽分野（ギター・マンドリン合奏）の桑名マンドリン倶楽部、美術分野（彫刻）の長谷川寛示さん、演劇・舞踊分野（演劇）の特定非営利活動法人パフォーミングアーツネットワークみえ、写真分野（写真芸術の振興と普及）の梁井英雄さんの5名を選出した。

文化新人賞は、「県内在住者又は三重県出身者で、芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動で、将来一層の向上が期待される個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行った結果、8名が選出され、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたことから、選考の結果、美術分野（彫刻）の寺田優芽さん、伝統芸能分野（津軽三味線）の三林七菜さん、美術分野（絵画）の弓指寛治さん、音楽分野（大正琴の演奏）の吉富心音さんの4名を選出した。

選考結果をみると、選考委員会での真摯な議論により、各賞とも素晴らしい方々を選出することができた。受賞された皆様におかれては、今後ますますのご活躍と、三重県の文化振興に一層寄与していただくことを期待したい。

今回の受賞者を分野別で見ると、美術分野4名、音楽分野2名、演劇・舞踊分野1名、写真分野2名、伝統芸能分野1名、生活文化分野1名、学術分野1名、その他分野（文化教育）1名であった。

美術分野、音楽分野、写真分野、伝統芸能分野での推薦が多く、これらの分野で活躍される方々の層の厚さが窺われる一方、メディア芸術（映画、漫画、アニメーションなど）分野の推薦が無かったことから、三重県文化賞の広報活動を推進し、認知度を上げ、今後、幅広い分野からの推薦をいただ

ることを期待する。

なお、今回は大賞から新人賞まではバランス良く推薦があったものの、前回の募集件数を下回った。第26回以降は、より多くの、そして、より多彩な文化活動に携わっている方々の成果が多く推薦されることを願う。

最後に、三重県の文化の向上に寄与するため、三重県の文化活動のさらなる活性化と向上のための礎となることを願う。そのためにも、三重県文化賞の意義をより明快に県民に認知していただけるよう、広報をさらに充実することで、幅広い分野や多くの地域の方々からの積極的な応募につながることを切望する。

第25回三重県文化賞選考委員会

(受賞者名は各賞五十音順)

第25回三重県文化賞受賞者

(受賞者名)	(住所)	(活動分野等)
〔文化大賞〕 松山 好成 (80歳)	名張市	美術分野(組紐)
〔文化功労賞〕 田邊 三郎 (76歳)	津市	写真分野(写真美術の振興と普及)
平野 久信 (75歳)	桑名市	生活文化分野(書道)
(雅号:平野 公慎)		
向井 弘晏 (84歳)	熊野市	学術分野(地域文化財の調査研究(フィールドワーク)、地域の古文書解読分析)
〔文化奨励賞〕 黒瀧 一輝 (43歳)	熊野市	その他分野(子ども文化・芸術体験事業の展開、リトルファーマーズ農業体験事業)
桑名マンドリン倶楽部	朝日町	音楽分野(ギター・マンドリン合奏)
長谷川 寛示 (36歳)	桑名市	美術分野(彫刻)
特定非営利活動法人	津市	演劇・舞踊分野(演劇)
パフォーミングアーツ		
ネットワークみえ		
梁井 英雄 (76歳)	鈴鹿市	写真分野(写真芸術の振興と普及)
〔文化新人賞〕 寺田 優芽 (24歳)	桑名市	美術分野(彫刻)
三林 七菜 (24歳)	津市	伝統芸能分野(津軽三味線)
	(四日市市出身)	
弓指 寛治 (40歳)	東京都	美術分野(絵画)
	(伊勢市出身)	
吉富 心音 (15歳)	度会町	音楽分野(大正琴の演奏)

(各賞五十音順、年齢は令和8年5月31日現在)

賞別：文化大賞

活動分野等：美術分野（組紐）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>まつやま よしなり 松山 好成</p> <p>(80 歳)</p>	<p>名張市</p>	<p>氏は、昭和 45 年に家業である組紐製造業を引継ぎ、組紐の製作を始め、平成 8 年には、伊賀組紐伝統工芸士に認定された。</p> <p>これまでに、日本伝統工芸展に 23 回、日本伝統工芸染織展に 24 回、東海伝統工芸展に 30 回入選し、日本伝統工芸展では日本工芸会会長賞、日本伝統工芸染織展では山陽新聞社賞を受賞するなど、日本における組紐の第一人者である。平成 26 年には皇室関係行事（歌会始）で利用する紐を作成する等、高く評価されている。</p> <p>氏の作品は、自ら染めた草木染の糸を使い、絶妙な色合わせと繊細な技術が特徴で、特に、技術の難しさにより継承が危ぶまれている唐組台を用いて組紐を製作する唯一の職人であり、この技術を用いて製作した作品「潮騒」は、第 69 回日本伝統工芸展で、日本工芸会会長賞を受賞した。</p> <p>また、東海伝統工芸展実行委員や、日本工芸会東海支部幹事、伊賀組紐伝統工芸士会会長、三重県伝統工芸士会会長等の要職を歴任し、伊賀組紐の伝統工芸士として随時指導を行うなど、業界の側面支援とともに後進の指導に当たっている。これらの活動により、令和 4 年瑞宝単光章、令和 6 年名張市特別表彰を受賞した。</p> <p>氏のこうした活動と功績は極めて優れたものであり、本県の文化の向上に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞

活動分野等：写真分野（写真美術の振興と普及）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>たなべ さぶろう 田邊 三郎</p> <p>(76 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、昭和 47 年に本格的に写真活動を開始した。自然環境に生きる動物たちの逞しさや人と動物たちとの関わりをテーマに、全日本写真展や国際写真サロン等多くのコンテストに出品し、昭和 50 年に二科展写真部門に初出品初入選を果たした。以後 6 年連続入選を続ける等、高く評価され、平成 25 年には「会員」に推挙された。同年、会員に推挙された記念として、写真集「いきものかたり」を出版、令和 5 年には「いきものかたりⅡ」を出版した。</p> <p>さらに、久居市美術展では第 1 回から招待作家として関わり、その後審査員及び運営委員に就任した。久居市が津市に合併した以降も、津市美術展の実行委員に委嘱されるなど、現在まで 40 年間にわたり地域の文化振興や写真作家の後進の育成に尽力している。</p> <p>全日本写真連盟三重県本部や、二科会写真部三重支部においても総本部委員や支部長として指導力を発揮し、県内各支部へ出向く月例会の講師や、選評助言等を長年にわたり務め、会員の技術向上や団体の活性化に努めた。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞

活動分野等：生活文化分野（書道）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>ひらの ひきのぶ 平野 久信 (雅号：平野公慎) (75 歳)</p>	<p>桑名市</p>	<p>氏は、昭和59年から書道教室を運営し、公立高校の書道講師も務めた。平成17年、平成20年、平成22年、平成23年と日展で4度入選したほか、読売書法展奨励賞や、中日展記念賞等を受賞した。</p> <p>平成28年に三重県書道連盟の副運営委員長として高校生の出品を可能とし、高校生・大学生・専門学校生の出品を無料にすることで、若年層への拡大を図った。さらに、学童、中高校生の書道教育を充実させたいとの思いから、各市の教育委員会に協力を依頼し、平成29年2月には県内初となる小学1年生から高校3年生までを対象とした「学生書道展」を企画。約3000点の展覧会を三重県総合文化センターで開催した。</p> <p>また、毛筆の啓発事業として、大きな紙面に大きな筆で書く「大文字体験」を県内各地で企画、実施し子どもたちに毛筆の楽しさを伝えた。この事業は県生涯学習センター主催の事業に三重県書道連盟が協力し実施する形で定着している。</p> <p>そのほか、40年にわたり書道教室を主宰し、後進を指導する中で、社会人や小中学生の発表の場を設けるとともに、桑名市総合医療センターや、桑名市商工会議所に作品を寄贈するなど地域の書道文化の継承や振興に努めた。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞 活動分野等：学術分野（地域文化財の調査研究（フィールドワーク）地域の古文書解読分析）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>むかい ひろやす 向井 弘晏</p> <p>(84 歳)</p>	<p>熊野市</p>	<p>氏は、みえ熊野学研究運営委員、三重県文化財保護指導員、熊野市文化財専門委員として長年地域の文化財の保全活動に携わってきた。平成 19 年に大泊町の民家で発見した納札を三重大学とともに合同で解読調査を行い、平成 22 年研究成果を「熊野街道善根宿納札調査報告書」として発刊した。氏の研究により熊野へ巡礼した人々の足跡をひも解き、巡礼者を救った熊野の人々の善意の象徴である「善根宿」の存在を広めた。また、熊野市全域の庚申塔 136 か所を調査し「熊野市域の庚申塔と庚申信仰」としてまとめ、現在の信仰の様子などを克明に記録した。</p> <p>さらに、熊野古道「観音道」の保全活動に長年取り組み、草取りや道の掃除及び補修、台風後の倒木等の撤去や道の整備等を行った。人手が必要な場合は応援を頼み、延べ 165 人が参加した。そして観音道を通り千手観音にお参りする初観音ウォークを主宰し、平成 16 年から平成 31 年まで 15 年にわたり毎年実施した。</p> <p>そのほか、16 年に及ぶ熊野古道の語り部としての活動や、地元紙に地方の昔話や石造物の記事を提供したり、県内外で熊野地域をテーマに講座の講師を務めたりする等、地域の歴史や文化の継承、振興に多大な貢献をした。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞 活動分野等：その他分野（子ども文化・芸術体験事業の展開、リトルファーマーズ農業体験事業）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p> <small>くるたき かずき</small> 黒瀧 一輝 (43 歳) </p>	<p>熊野市</p>	<p>氏は、大学卒業後、「くまのっ子学童クラブ」を開所し、地域の子どもの全人的成長を願い、「子どもと文化」を軸として昔遊びや園芸、茶道、郷土料理等、地域文化の体験を提供している。また、子どもたちに演者と直接接する機会を持ってもらうため、人形劇団や音楽家等を招く文化芸術体験活動を年間5～6回開催し、60人から100人の子どもや親子が参加している。さらに、子どもが自由にいろいろなものを使って遊べる居場所、命の循環を体験する場所としてリトルファーマーズ農場を開設し、ポニーや豚、ヤギ、ウサギなどとのふれあいが出来る体験を提供している。</p> <p>そのほか、市外の子どもたちが熊野の雄大な自然を満喫してもらう自然体験活動や、学校になじまない子どもたちへの支援として運営するフリースクールにおいても子どもたちがさまざまな文化に触れ、体験できるよう尽力している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：音楽分野（ギター・マンドリン合奏）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>くわな 桑名 マンドリン くらぶ 倶楽部</p> <p>(会長：とよだ のりお 豊田 憲生)</p>	<p>朝日町</p>	<p>当団体は、マンドリン奏者で指揮者、作曲家の故中野二郎氏の指導により大正 10 年に「桑名マンドリン倶楽部」として創設され、大正 13 年に初めての演奏会を行い、その後も年 1 回の演奏会を実施しており、その活動期間は 105 年に及ぶ。</p> <p>各施設・小中学校への慰問演奏、企業や団体からの依頼演奏に加えて、桑名市民芸術文化祭やみえ県民文化祭、JMU 中部マンドリンフェスティバル等多数のイベントに参加し、マンドリン音楽の普及、ギター・マンドリン演奏家の増加やレベルアップに努めた。こうした活動が評価され平成 21 年に桑名市民文化功労団体として表彰された。</p> <p>令和 5 年には桑名市柿安シティホールで創立 100 周年記念演奏会を催し好評を得た。</p> <p>また、一般社団法人日本マンドリン連盟（JMU）中部支部の支部長や、三重県ギター・マンドリン連盟の理事、監事、副理事長等、包括組織の要職を本団体の会員が長年務める等、業界運営の側面での貢献も大きい。</p> <p>当団体は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：美術分野（彫刻）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>はせがわ かんじ 長谷川 寛示</p> <p>(36 歳)</p>	<p>桑名市</p>	<p>氏は、東京藝術大学大学院を修了し、卒業制作において三菱地所賞を受賞するなど、早くから高い評価を受けた。</p> <p>伝統的な木彫技法と、現代的感性を融合させ、さらに自身も僧侶を経験したという背景から、仏教的思想を基盤に独自の表現を追求しており、「時間」「生命」「無常」といった主題を木、金箔などの素材を通して形に表す独自の作風を確立している。これまで国内外のアートフェアや展覧会で高く評価され、タグチアートコレクション等、世界的なコレクションにも収蔵されている。</p> <p>さらに任天堂の旧本社屋を安藤忠雄氏監修のもとリニューアルしたホテル「丸福樓」への常設展示、スーツケースブランド「リモワ」が主催する世界巡回展への参加等、世界的企業と協働して、彫刻の新たな可能性を国際的に発信している。</p> <p>一方で氏は地元三重県に根ざし、三重県立美術館でのワークショップの開催や、倒木の恐れのあるクスノキの彫刻用素材としての再活用等を通して、後進の育成と地域文化の継承に努めている。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：演劇・舞踊分野（演劇）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>とくてい ひ え い り か つ ど う ほう じ ん 特定非営利活動法人 パフォーミング アーツネットワーク みえ</p> <p>(代表：ゆ だ あきら 油 田 晃)</p>	<p>津市</p>	<p>当団体は、舞台芸術の振興と演劇ワークショップの普及による地域文化の振興を活動の柱として平成23年に設立した。</p> <p>県内唯一の民間劇場である「津あけぼの座」の運営を通して、これまで約70を超える団体の公演を行うなど、舞台芸術事業を展開してきた。</p> <p>特に、三重県内の飲食店で名作・古典のリーディング（読む）公演「MPAD」は、平成23年から県文化会館とともに進め、全国から「地域おこし」や「まちづくり」の事例として注目されている。</p> <p>コロナ禍においては、県内の芸術団体、表現者、映像・舞台業界の実態調査で主体的な役割を担い、県に対し提言を行った。</p> <p>また、平成22年以降、演劇体験を行う演劇ワークショップを、小学校低学年向け、中高学年向け、演劇経験者、大学生・一般とそれぞれの課題に合わせて随時開催している。さらに、作品の世界観を伝え、全国の俳優や劇作家・演出とも触れ合うきっかけづくりとして、招聘する劇団の上演日直前に、ワークショップを開催しているほか、劇作家養成の観点から戯曲執筆の講座を開催する等、演劇を知らない人から本格的に取り組みたい人までの育成プログラムづくりを行っている。</p> <p>当団体は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：写真分野（写真芸術の振興と普及）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>やない ひでお 梁井 英雄</p> <p>(76 歳)</p>	<p>鈴鹿市</p>	<p>氏は、平成 26 年に全日本写真連盟かわの支部に入会し、本格的に写真を始める。スナップ写真を得意とし、人間の喜怒哀楽をリアルに表現することを得意としている。</p> <p>技術の習得に励み、みえ県展では入選 9 回、令和 7 年第 75 回同展では、教育委員会教育長賞を受賞した。二科会写真部展では 4 回の入選と 2 回の入賞により会友に推挙された。さらに、全日本写真連盟をはじめ全国規模のコンテストに数多く入選・入賞し、令和 6 年第 28 回総合写真展では内閣総理大臣賞を受賞するなど、三重県の写真界をリードしている。</p> <p>加えて、全日本写真連盟かわの支部の支部長として指導力を発揮し、円滑な例会運営により会員からの厚い信頼を獲得、コンテストへの応募を促し多くの会員が好成績を収める等、後進の指導に尽力した。</p> <p>こうした支部の発展と県内写真界での貢献を高く評価され、令和 4 年に全日本写真連盟三重県本部委員に、令和 6 年に二科会写真部三重支部事務局長を歴任し、事業運営と発展に努力している。さらに、鈴鹿市芸術文化協会の理事として地域文化の育成にも尽力している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：美術分野（彫刻）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>てらだ ゆめ 寺田 優芽</p> <p>(24 歳)</p>	<p>桑名市</p>	<p>氏は、三重県立飯野高等学校応用デザイン学科彫刻コース、名古屋芸術大学芸術学部芸術学科を卒業後、県内の公立学校に美術講師として赴任し、美術指導をする傍ら創作活動を続けている。</p> <p>県展や市展等の公募展に積極的に応募し、平成 30 年鈴鹿市美術展彫刻部門入賞を皮切りに、桑名市や四日市市をはじめとする県内の市展で入選、入賞をする等、評価を高めている。令和元年、令和 4 年のみえ県展では「自然の恵み」賞、令和 6 年ぎふ美術展自由表現部門において最優秀賞であるぎふ美術展賞を受賞した。</p> <p>そのほか、グループ展への参加や、個展なども精力的に行っている。</p> <p>氏のこうした活動には、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：伝統芸能分野（津軽三味線）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>みつばやし なな 三 林 七 菜 (24 歳)</p>	<p>津市 (四日市市出身)</p>	<p>氏は、14 歳から津軽三味線を始め、その翌年から津軽三味線の全国大会に挑戦し、20 歳の時に「第 2 回全国じょんがら三味線競技会一般女性の部」で初優勝を飾った。以降数多くの大会に出場し、令和 5 年の「津軽三味線日本一決定戦 上級女性の部」の優勝をはじめ、これまでに 3 度の優勝経験がある。</p> <p>演奏活動も精力的に行っており、四日市ジャズフェスティバルや、エキサイト四日市バザール、あさけプラザ文化祭等地域のイベントに参加して、多くの人に津軽三味線の魅力を広めている。</p> <p>さらに、介護施設等での訪問演奏を通して、人と人とのつながりの創出や、心の癒しを届けることにも精力的に取り組んでいる。</p> <p>氏のこうした活動には、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：美術分野（絵画）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>ゆみさし かんじ 弓指 寛治 (40 歳)</p>	<p>東京都 (伊勢市出身)</p>	<p>氏は、伊勢市出身で名古屋学芸大学在学中に絵画制作を開始した。同校大学院を修了後、映像制作会社を起業・経営したのち、平成 25 年に本格的に作家活動へ進んだ。死者への鎮魂を主なテーマとして作品制作と発表を行っており、平成 30 年第 21 回岡本太郎現代芸術賞展にて岡本敏子賞、令和 3 年 VOCA 展にて VOCA 佳作賞、令和 6 年絹谷幸二芸術賞にて奨励賞を受賞するなど、現代美術の世界で注目されている。</p> <p>また、令和 6 年に国立西洋美術館で開催された現代美術展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」に招聘され、上野公園の路上生活者と山谷の簡易宿泊所に暮らす労働者に注目した作品を制作し、高く評価された。そのほか、戦中に三重県から満洲国へ送出された「五十鈴義勇隊開拓団」に焦点を当てた個展「不成者」を水戸市で開催するなど、歴史や社会の中で取りこぼされがちな人々に焦点を当てることで、現代社会の在り方を問いかけ続けている。</p> <p>氏のこうした活動には、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：音楽分野（大正琴の演奏）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>よしとみ ここね 吉富 心音 (15 歳)</p>	<p>度会町</p>	<p>氏は、幼いころから大正琴に親しみがあり、小学2年生の時に度会町教育委員会が主催する「キッズチャレンジ・大正琴」に参加したことをきっかけに8歳で本格的に大正琴を始めた。</p> <p>翌年小学3年生の時に度会町文化祭で「小さな世界」を演奏し初舞台を踏み、以降「全国子供大正琴コンクール」に毎年出場している。同コンクールでは、令和4年から令和7年まで上級者が出場する「部門B」において最優秀賞である文部科学大臣賞を4年連続受賞し、大会史上初の快挙となった。氏の演奏は技術の巧みさ、特に速弾きの技術は他の出場者を圧倒し、表現力の深さにおいても実際の年齢を感じさせない実力の持ち主である。</p> <p>さらに、地元の度会町文化祭や、みえ県民文化祭総合フェスティバルにも参加し、多くの人に大正琴の音色を届けている。</p> <p>氏のこうした活動には、将来一層の向上が期待できる。</p>

第25回 三重県文化賞の概況

1 賞の趣旨

三重県の文化振興に貢献し、その活動及び功績が優れた個人・団体を表彰することにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標にもなるよう、顕彰制度として三重県文化賞を設ける。

2 募集期間

令和7年8月12日から10月31日まで

3 受賞候補者の状況

文化大賞	6名	
文化功労賞	12名	
文化奨励賞	14名	
文化新人賞	8名	総数 40名

4 受賞者の状況

(1) 分野別受賞者数

賞区分	分 野										計
	文学	美術	音楽	演劇・舞踊	写真	メディア芸術	伝統芸能	生活文化	学術	その他	
文化大賞		1									1
文化功労賞					1			1	1		3
文化奨励賞		1	1	1	1					1	5
文化新人賞		2	1				1				4
計		4	2	1	2		1	1	1	1	13

(2) 地域別受賞者数

賞区分	地 域（各地域防災総合事務所・地域活性化局）										計
	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	南勢志摩	伊賀	紀北	紀南	県外	
文化大賞							1				1
文化功労賞	1			1					1		3
文化奨励賞	1	1	1	1					1		5
文化新人賞	1			1		1				1	4
計	3	1	1	3		1	1		2	1	13

三重県文化賞歴代受賞者(第1回～第25回)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第1回	平成13年度	北村憲司(児童文学)	勝美伊三次(日本舞踊) 保黒時男(植物生態学調査)	あの津っ子の会(児童文学) 伊勢管弦楽団(交響楽) 伊藤宏樹(吹奏楽) 落合花子(詩歌) 川端守(地域づくり活動)	新井明子(演劇) 津手づくり絵本の会(児童文学) 坪井智子(箏曲) 伴 剛一(作曲活動) 東川和子(川柳) 平田 環(俳句)
第2回	平成14年度	(該当者なし)	亀山絵本と童話の会(児童文学) 坪島土平(陶芸) 三重ヴォークスボーナ(合唱)	伊勢シンフォニックバンド (吹奏楽) 菅生三千代(箏曲) 羽場正一(演劇) 黛 元男(詩歌) 南川憲生(彫刻)	池田比早子(ひのきクラフト) 鎌田美津子(写真) ゴルジ隊(演劇) 阪野 優(マンボ研究) 田中 豊(演劇) 中森 勉(写真) 平賀節代(俳句) 森田茂治(詩歌)
第3回	平成15年度	稲垣克次(彫刻)	川北佐平治(伝承芸能) 中村武郎(ギター・マンドリン) 山口勲(俳句)	金子聡(環境科学研究) 北住淳(ピアノ演奏) 近藤英子(彫刻) 森一蔵(萬古焼) 山内玲子(箏曲)	石井烈(俳句) 佐々木経子(俳句) 東勝美(児童文学) Building Bridges (文化資産等の保護) 津軽三味線兄弟ユニット KUNI-KEN(津軽三味線) 三浦恭子(インド舞踊) 水野昌光(地域の映画館を 活用した市街地活性化)
第4回	平成16年度	ヴォーカルアンサンブル 《EST》(合唱)	岡村信也(吹奏楽) 土屋喜八郎(能楽) 中林長生(俳句)	笠井幹夫(オペラ) 木岡ふみ子(箏、三絃) 佐々木宏子(ピアノ演奏) 清水正明(郷土文学者・ 文学作品の発掘、紹介) 谷口智行(俳句)	阪本青悠(書) 高崎一郎(詩) 中山かほり(吹奏楽) 藤田智子(箏、十七絃等) 松田美靱(小説) 三重大学ダンス部(ダンスの創作)
第5回	平成17年度	野口巳織子(日本画)	関宿町並み保存会 (関宿の町並み保存) 田村美保子(大正琴) 間瀬 昇(評論、小説)	田村公男(洋画) 東海かおり(箏、三絃) 福山良子(俳句) 松嶋 節(小説) 山村楽女(日本舞踊)	伊勢童話をつくる会“ほほえみ” (童話) 麻植慶治(雅楽) 奥山和子(俳句) 後藤千佳子(筆名:伍東ちか) (現代詩) 津村美香(フラワーデザイン) 人情集団An-Pon-Tan (バリアフリーミュージカル)
第6回	平成18年度	谷本光生(伊賀焼)	岡森 章(伊賀焼) 森 浩一(能楽・狂言)	川島雅樹 (声楽・オペラ・合唱) 水谷幸勉(工芸美術) 宮村典子(川柳) 村上しいこ(童話) 三重オペラ協会(オペラ)	佐藤千恵(俳句) みえ熊野学研究会 (地域資産研究)
第7回	平成19年度	宮田正和(俳句)	越知愛幸子(合唱) 中川忠峰(根付) 吉居清雄(堅塩作り)	中山かほり(吹奏楽) 西田誠(俳句) 秦昌弘(郷土作家の研究) 服部博之(和太鼓) 馬場浩子(声楽)	アモーレかめやま(大正琴) 梅山憲三(現代詩) 垣内美穂(詩・児童文学) 桐生智晃(吹奏楽) 葛原郁子(短歌) 現代邦楽奏団グループ竹友 (邦楽) 比留間雅弥真天(邦楽)

三重県文化賞歴代受賞者(第1回～第25回)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第8回	平成20年度	小野雅生(洋画)	稲垣無得(書) 倉田しげる(俳句)	伊藤政美(俳句) 岩崎孝子(洋画) 津田親重(日本画) 野村幸廣(ミュージカル) 山本翠松(伝統漆工芸)	秋野信子(詩・小説) 岡本妙子(詩) 劇団員弁川(演劇) 福田容子(俳句)
第9回	平成21年度	園田 幸男(吹奏楽)	赤井 重規(能楽) 原 直矢(彫刻) 鍋島 泰(方言の研究)	橋本 輝久(俳句) 三重県吹奏楽連盟(吹奏楽) 田中 厚好(彫刻) 青木 久佳(短歌) 岸 武男(演劇)	山口 道子(版画) 前田 照子(俳句) やまぎり 萌(現代詩) 林 英一(多文化共生の研究) 長岡 むつみ(リコーダー指導) 中川 左和子(短歌)
第10回	平成22年度	長島 幹生(写真)	相賀 泰(神楽) 衣斐 弘行(評論・小説の 執筆、郷土作家の顕彰) 川合 俊平(合唱)	小河 柳女(川柳) 津奈乃会(邦楽) 矢田 新男(写真) 矢吹 紫帆 (音楽による地域振興)	小早川 涼(小説) 佐藤ゆかり(女性史の研究) 多気町劇団白つばき(演劇) 橋倉 久美子(川柳) 橋本 石火(俳句) 堀内 晶(地域の歴史・文化と 戦争体験の語り継ぎ) 村田 三郎(地域文化の紹介と 観光ボランティアガイド) 村山 砂由美(詩)
第11回	平成23年度	稲葉 祐三 (声楽・合唱・オペラ)	田嶋 禮子(マリンバ) 玉置 千代(児童文学) 野嶋 峰男(木漆工芸)	伊藤 清和(美術の振興) 神田 ひろみ(俳句・評論) 清崎 博(安乗の人形芝居) 山崎 龍芳(伊賀焼) 四日市ジュニア・アンサンブル (合奏等)	越知 ひとみ(音楽の普及) 小津 由実(俳句) 斎宮アカデミー(歴史・文化) 清水 潮(萬古焼) 中西 紀和(陶芸)
第12回	平成24年度	橋本 三重子(日本画、書道)	伊藤 政美(俳句) 角谷 英明(陶芸) 菅生 和光(吹奏楽、指揮者)	桐生 智晃(吹奏楽) 坂尾 富司(写真) 中村 かおる(箏曲) 西田 真也(陶芸) 三重県陶芸協会(「焼きもの」 の振興)	真山 隼人(浪曲) 志摩市俳句協会(俳句) 手塚 泰子(俳句) 西村 健二(郷土史研究) 堀川 孝子(詩) 村松 とし子(短歌)
第13回	平成25年度	三重フィルハーモニー 交響楽団(交響楽)	羽場 正一(演劇) 羽根 功二(合唱) 森 悦彦(作詞・作曲)	小川 匪石(書) 紀の川良子と市民劇団 (演劇を通じた地域振興) 阪本 青悠(書) 達知 和子(短歌) 比留間 雅弥真天(箏・三弦)	岩田 典子(俳句) 服部 真紀子(陶芸) 廣 めぐみ(声楽)
第14回	平成26年度	加藤 子華(書)	谷本 景(伊賀焼) 森 正(陶芸) 脇谷 実千子(児童文学)	尾崎 亥之生(俳句) 武村 豊徳(陶芸) 伴野 節子(箏・三絃) 吉川 光和 (競技かるたの読み手) 吉崎 柳歩(川柳)	伊藤 圭佑(津軽三味線) つげ みさお(児童文学) 西田 昂平(声楽) 和太鼓 凜(和太鼓)
第15回	平成27年度	三代 清水 醉月(陶芸)	加藤 純一(詩吟) 福田 勝(能楽) 松山 好成(組紐)	印藤 幸恵(陶芸) 坂口 緑志(俳句) 田邊 三郎(写真) 中井 智弥(箏曲) 安田 隆亮(絵画)	牛場 寿子(写真) 大形 弥生(木工) 駒田 早代(津軽三味線) 野瀬 みつ子(写真) 平野 透(俳句)
第16回	平成28年度	錦 かよ子(作曲)	石井 いさお(俳句) 矢田 新男(写真)	梅山 憲三(現代詩) 岡本 千尋(俳句) 加藤 秀樹(陶芸) 憲旺会(尺八) 伴 剛一(作曲)	伊藤 潤一(書) 前田 祐英(木工) 森川 眞理子(パステル画) 森下 充子(俳句) 横田 千明(彫刻)

三重県文化賞歴代受賞者(第1回～第25回)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第17回	平成29年度	合唱団「うたおに」(合唱)	井上 博暁(俳句) 菊川 淑子(能) 桐生 智晃(吹奏楽)	牛場 和美(写真) 紺谷 猛(小説) 近藤 たみ(陶人形) 藤原 伸久(小説) 森 玲子(箏曲)	赤野 四羽(俳句) 岡島 千秋(俳句) 久保 恵子(詩・児童文学) 小林 美咲(声楽) 白木 千華(陶芸)
第18回	平成30年度	林 克次(陶芸)	多門 志風(水墨画) 恒岡 光興(伊賀焼) 西川 里寿(日本舞踊)	現代邦楽奏団「新しいぶき」(邦楽) 谷本 雅一(石彫刻) 辻井 甫山(尺八) 戸田 真樹(文芸評論) 西尾 敬一(俳句)	岩田 優里愛(ヴァイオリン) 高藤 典子(詩・短歌・俳句) 竹内 洋司(尺八) 藤田 哲也(日本画) 森本 昭子(俳句)
第19回	令和元年度	大川 吉崇(郷土文化)	荒木 友梅(書道) 河俣 和子(合唱) 橋本 輝久(俳句)	遠藤 昭己(小説・詩) 女声合唱 Luce(合唱) 名張こども能楽囃子教室実行委員会(能楽囃子) 平賀 節代(俳句) 村山 昌子(小説・童話)	岩名 泰岳(絵画) 小川 はつこ(散文) 川淵 皓平(竹製ランプの制作・演出) 清水 ゆん(短歌) 橋本 莉(大正琴)
第20回	令和2年度	菅生 和光(吹奏楽・指揮)	兼重 直文(ピアニスト・音楽指導者) 坂尾 富司(写真) 津女声合唱団(合唱)	加藤 訓峯(邦楽)(現:西尾 峯一) 中川 瑠雲(書道) 橋倉 久美子(川柳・エッセイ・小説) 林田 さなえ(ガラス工芸) 松阪もめん手織り伝承グループゆうづる会(松阪木綿)	加藤 ひろな(デザイン) 中村 栄宏(リコーダー) 百地 拓窓(書道)
第21回	令和3年度	川口 祐二(地域伝統文化の保存啓発活動)	佐々木 洸舟(書道) 谷本 善聖(民謡・三味線) 養正コーラス(合唱)	稲垣 竜一(陶芸) 岡村 仲江(写真) 野瀬 みつ子(写真) 廣山 三千代(美術工芸・染色) 前田 典子(俳句)	小林 純生(作曲及び音楽イベントの実施) 佐藤 敬(建築) 村山 響(ピアノ) 山田 風雅(彫刻・立体造形)
第22回	令和4年度	紀平 昌伸(手描き映画看板)	神田 ひろみ(俳句) 小牧 昭夫(陶芸) 津田 親重(日本画)	伊藤 潤一(書道) 亀山トリエンナーレ実行委員会(現代アート) 佐々木 典子(フラメンコ舞踊) 城島 正子(写真)	大西 佐奈(絵画) 橋本 英幸(写真) 麦畑 羊一(同人雑誌の発行) 梁井 英雄(写真)
第23回	令和5年度	加賀 瑞山(陶芸)	小島 憲二(陶芸) 高尾 静玉(書道) 谷本 雅一(石彫)	岩木 和樹(合唱) 大杉 華桜(彫型画) 柴田 ただしげ(スナップ・心象風景) 平田 茂(彫刻) 三重県まちかど博物館ネットワーク(文化資源を生かした地域の活性化)	奥亀屋 一慶(絵画) 渋谷 むつこ(俳句) 玉山 翔偉(人力車俵夫) 原 宗史(チェロ) 山口 さやか(韓日文芸翻訳)
第24回	令和6年度	中川 忠峰(伊勢根付)	中井 智弥(箏曲) 長岡 むつみ(リコーダー教育) 三石 学(熊野古道及び熊野学の研究)	内山 修(写真芸術の振興と普及) 越知 ひとみ(合唱・障がい者の音楽活動) 梶浦 明日香(伊勢根付) カルチャーボランティアガイド「いがうえの語り部の会」(観光ボランティアガイド) 松村 正之(俳句)	えのもと ひさ(オーストリアと熊野の芸術交流) 小掠 雄大(書道) 西尾 峯侑(邦楽) 山口 美音(陶芸) 吉田 裕軌音(フルート)
第25回	令和7年度	松山 好成(組紐)	田邊 三郎(写真美術の振興と普及) 平野 久信(書道) 向井 弘晏(地域文化財の調査研究(フィールドワーク)、地域の古文書解読分析)	黒瀧 一輝(子ども文化・芸術体験事業の展開、リトルファーマーズ農業体験事業) 桑名マンドリン倶楽部(ギター・マンドリン合奏) 長谷川 寛示(彫刻) 特定非営利活動法人パフォーミングアーツネットワークみえ(演劇) 梁井 英雄(写真芸術の振興と普及)	寺田 優芽(彫刻) 三林 七菜(津軽三味線) 弓指 寛治(絵画) 吉富 心音(大正琴の演奏)